

No.創出-2-1	休憩施設（ベンチ、テーブルなど）の設置		
-----------	---------------------	--	--

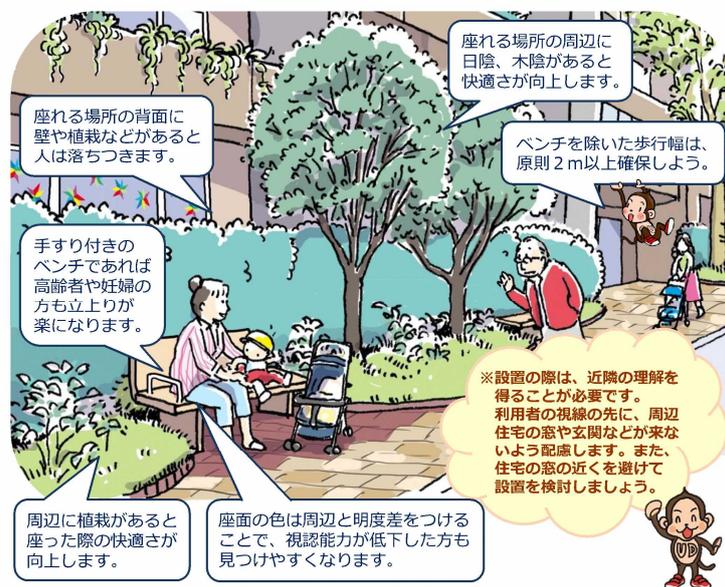
技術の目的			
空間の用途に合わせて、ベンチやテーブルなどの休憩施設を設置し、居心地や魅力の向上を図る。			
導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

**技術の内容・事例**

**■技術の内容**

- ・ 人の滞留や活動をサポートするベンチ・テーブルなどの設備は活気のある街路やオープンスペース、公園などの形成に寄与し、歩行や滞留を促す効果がある。
- ・ 座れる場所がまちなかにあることで誰もが気軽に外出できるユニバーサルデザインのまちづくりにつながる。 出典1

図 公共空間の座れる空間の質を高める方法例 出典1



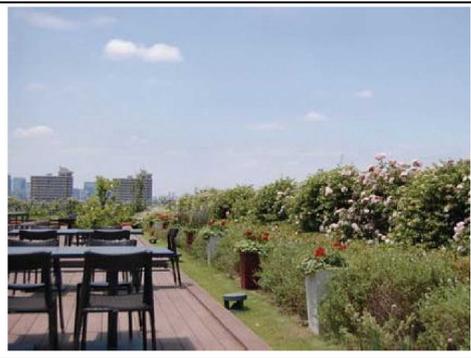
**■導入事例**

1. 緑陰・植栽と組み合わせた休憩スペースの事例
  - ・ 街路樹などの植栽と座れるスペースを一体化し、樹木の根系保護や居心地の良い空間づくりを行っている。





病院の屋上菜園に車いすでも使える作業台がある事例<sup>出典2</sup>



オフィスの屋上庭園に仕事もできるテーブル・ベンチがある事例<sup>出典2</sup>

### ■出典・参考資料

- ・ 1 世田谷区「座れる場づくりガイドライン」（平成 30（2018）年）  
<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/006/004/d00158569.html>
- ・ 2 国土交通省「緑による建物の魅力アップガイド」（平成 28(2016)年 12 月）  
[https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi\\_parkgreen\\_mn\\_000008.html](https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi_parkgreen_mn_000008.html)

### 基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ、 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
		◎			

注) ◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

### 期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害（火災・水害など）の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
						●	●	●	●	●		●	●	●	●	●